

保育実習への学生の観点と課題

Students Viewpoints and Problems  
on Nursery School Practicum

千 勝 真知子  
Machiko CHIKATSU

## I はじめに

わが国の保育制度は終戦を経て、新たなものへと変わった。1947年「児童福祉法」の制定に伴い、保育所は児童福祉施設の1つとして新たに位置づけられ、保母養成における保育実習もこの新制度のもとに実施される。しかし、この頃の保育実習は期間や方法などは様々な形態であった。1951年「児童福祉法施行規則」の一部改正により、履修科目と配当単位数が示され、保育実習は「総合実習」20単位と位置づけられた。その後、高度経済成長にともなう労働人口の流動化や核家族化、地域環境の変化、女性の社会進出など、社会の動きを受けて保育所の増設が進んだ。1962年保育所の増設にともなう保母の増員から、保母の質的な資質向上の課題に答えるために、「児童福祉法施行規則」の一部改正とともに、保母養成施設の履修科目及び修得単位数の大幅な改正がなされ、保育実習は20単位から10単位に改められた。所要時間、実習日数が定められ、特に所要時間数が重視されていた点が特徴といえる。又、幼稚園における教育実習の単位読み替えも可能であった。1970年「児童福祉法施行規則」の一部改正により、教科目における保育実習は、必修で保育実習Ⅰを4単位、選択で保育実習Ⅱ（保育所）及び保育実習Ⅲ（施設）を各2単位へと改められ、単位数の削減が図られた。また、幼稚園における教育実習の読み替えが廃止された。このような改正により現在の保育実習にかなり近い形態がとられることとなる。1991年の保育実習実施基準の改正点では、保育実習に際しての事前及び事後の指導のための単位を設定し、従来の保育実習Ⅰ（4単位）を保育実習（5単位）とし、さらに各実習の履修方法として示されていた「所要時間数」が省かれ、「おおむねの実習日数」のみとされた。2001年には保育実習Ⅱ（2単位）と保育実習Ⅲ（2単位）を選択必修の形に位置づけ、現在に至るのである。保育実習は保育所の役割、子どもの姿、保育士の職務内容、保育士としての態度など体験を通して学び、理解を深める場である。そこで本学学生の実習における実習園でどのような体験が学びにつながったか、本学で学んだ専門科目が実習に生かされたか、アンケート調査の結果を報告する。

## II 調査方法

調査対象：保育科2年 142名（平成19年度）

保育科2年 137名（平成20年度）

調査日：平成19年7月31日

平成20年7月30日

調査方法：自由記述方式による回答 「今回の保育実習Ⅱを通して」

1. 実習園に対して「よかった・うれしかった」と思ったこと
2. 実習園に対して「納得いかなかった・不満だ」と思ったこと
3. 人間関係について「嬉しかった・勉強になった」と思ったこと

\*子どもと接してみても

\*指導の先生から

4. 人間関係について「困った・不満だ・こんなふうにして欲しかった」と思ったこと

\*子どもと接してみても

\*指導の先生から

5. 大学で学んだことで

\*実習に役立ったこと

\*実習前に学べるとよかったこと

6. その他

### Ⅲ 調査結果と考察

1. 実習園に対して「よかった・うれしかった」

表1

| 項目                   | 19年度 (%) | 20年度 (%) |
|----------------------|----------|----------|
| 雰囲気・指導・対応がよかった       | 36%      | 50%      |
| 実践(絵本・手遊び)楽しんでもらえたこと | 14%      | 11%      |
| 子どもへの理解ができたこと        | 12%      | 17%      |
| 行事に参加できたこと           | 6%       | 3%       |
| 反省会で励まされたこと          | 4%       | 4%       |
| その他                  | 21%      | 13%      |
| 特になし・回答なし            | 6%       | 2%       |

- ・質問に対してしっかりと答えてくれたこと
- ・先生達が優しく接してくれたこと
- ・日案の書き方を優しくきちんと教えてくれたこと
- ・実習指導は厳しかったが、丁寧に指導してくれたこと
- ・指導の先生がどんな質問に対しても丁寧に答えてくれたこと
- ・責任実習のとき、担当の先生から素敵な言葉をたくさんいただいたこと
- ・実習日誌をよく見ていただいた
- ・1歳児の病気について詳しく教えてもらったこと
- ・子どもの注意をひきつける方法を教えてもらったこと
- ・子どもたちに手遊びを教えてあげたら喜んでくれたこと
- ・責任実習でおもちゃ作りをして子どもたちが喜んでくれたこと
- ・0歳児クラスを観察できたこと
- ・おむつ交換ができたこと

- ・ 同年齢を12日間実習できて深く関わられたこと
- ・ 子どもたちと遊べたこと・子どもたちから頼りにされたこと
- ・ 前回と同じ実習園だったので、子どもの成長が見られた
- ・ 乳児の援助・対応を体験できた
- ・ 行事に参加できた
- ・ 先生達に励ましの言葉をいただきうれしかった
- ・ 前回と同じ実習園で子どもたちが名前を覚えていてくれたこと
- ・ 保護者が優しく接してくれた
- ・ 挨拶を大切にしているところ
- ・ 実習でいろいろと体験させてもらえたこと
- ・ 卒園した園で実習できたこと
- ・ 反省会のときに具体例をあげてアドバイスをしてくれた
- ・ 自分の弱点や足りないところを気づかせてくれたこと
- ・ 前回の実習の反省点を今回の実習で生かしたこと
- ・ 保育士としての姿勢が勉強になった
- ・ 保育士の大変さがわかった

## 2. 実習園に対して「納得いかなかった・不満だ」

表2

| 項目           | 19年 (%) | 20年 (%) |
|--------------|---------|---------|
| 雰囲気・指導・対応が不満 | 16%     | 12%     |
| 責任実習に関すること   | 6%      | 4%      |
| 子どもへの対応      | 2%      | 2%      |
| 事前の指導        | 4%      | 1%      |
| その他          | 14%     | 10%     |
| 特になし・回答なし    | 57%     | 71%     |

- ・ 指示・命令，文句，嫌味ばかり言われたこと
- ・ 10日間ずっと同じクラスだったので，他の年齢クラスも見なかった
- ・ 最終日に実習日誌の書き方についてのコメントを言われたこと
- ・ 何をするのに指導の先生は何の説明もしてくれなかった
- ・ 実習日誌の指導欄を毎日書いてくれなかったこと
- ・ 最初に褒めて後で叱るのではなく，最初に叱って後で褒められる方がよい
- ・ 毎日のアドバイスがなく，最終日（反省会）で言われたこと
- ・ 事実確認せず，決めつけて怒られたこと

- ・先生方同士があまり仲良くないようだった
- ・担任と主任の指導が違う
- ・積極的な動作に対し、否定された
- ・12日間1歳児クラスのみであった
- ・実習生に対しての保育士の態度
- ・担当の先生がベテランだとよかった
- ・指導案の提出日がはやかった
- ・指導案に対する助言が欲しかった
- ・責任実習がはやかった（子どもたちを把握してから出来ればよかった）
- ・子どもに対し呼び捨てだった
- ・午睡時に保育士同士話をしていた
- ・0歳児クラスも担当したかった
- ・改善点を言ってもらえなかった
- ・反省会がなかった

### 3-1 子どもと接して「うれしかった・勉強になった」

表3-1

| 項目                    | 19年 (%) | 20年 (%) |
|-----------------------|---------|---------|
| 子どもが慕ってくれたこと          | 33%     | 42%     |
| 子どもへの理解ができたこと         | 27%     | 28%     |
| 責任実習で「楽しかった」と言ってくれたこと | 4%      | 1%      |
| 前回の実習を覚えていてくれたこと      | 4%      | 5%      |
| 手遊びを楽しんでくれたこと         | 3%      | 0%      |
| 先生として接してくれたこと         | 2%      | 4%      |
| その他                   | 17%     | 16%     |
| 回答なし                  | 12%     | 5%      |

- ・お姉さん先生と言われたことがうれしかった
- ・子どもたちから名前と呼ばれたこと（名前を覚えてくれた）
- ・親しく寄ってきてくれた
- ・子どもは素直で優しい気持ちをもっていることに感動した
- ・乳児とのかかわり方が勉強になった
- ・障害を持つ子への対応が勉強になった
- ・興味を持つと意欲的に取り組むことがわかった
- ・責任実習をして、各年齢にできること・できないことがわかった

- ・言い合いを仲裁しようとしている子がいたのに驚いた
- ・子どもたちは素直で何事にも一生懸命だった
- ・子ども一人一人の性格がわかるようになった
- ・1歳児は人見知りすることがわかった
- ・下手な伴奏でも歌ってくれた
- ・折り紙、手遊びを喜んでくれた
- ・自分自身が楽しめることで子どもたちも楽しめることがわかった
- ・前回の実習を覚えていてくれた
- ・子どもたちから教えてもらうことがあった
- ・保育現場でしか経験できないことがわかってよかった
- ・子どもはいつも目がはなせないので大変さがわかった
- ・保育士に向いていることを確信できた

3-2 指導の先生から「うれしかった・勉強になった」と思ったこと

表3-2

| 項目             | 19年 (%) | 20年 (%) |
|----------------|---------|---------|
| 指導・フォローがよかった   | 38%     | 55%     |
| 子どもへの対応が勉強になった | 23%     | 16%     |
| 褒めてもらってうれしかった  | 14%     | 6%      |
| 絵本の読み方が勉強になった  | 4%      | 0%      |
| その他            | 9%      | 17%     |
| 特になし・回答なし      | 11%     | 6%      |

- ・子どもたちの接し方や声掛けについて教えてもらった
- ・私の行動をよく観察し、適切にアドバイスをしてくれた
- ・子どもへの対応・子どもの話をきちんと聞くことを教えていただいた
- ・子どもの指導は先生同士のコミュニケーションが大切であることがわかった
- ・指導案の具体的なアドバイスをいただいた
- ・責任実習についていろいろなアドバイスを受けた
- ・自分のマイナス面をプラスにもっていくように指導してくれた
- ・子どもの目を見て、善し悪しを判断するように指導してくれた
- ・読み聞かせの工夫について指導してくれた
- ・指導案のたてかたを学んだ
- ・実習日誌の記入について指導していただいた
- ・子どもに対する愛情あふれる指導が勉強になった

- ・問題を抱えた子や障害児への対応が勉強になった
- ・子ども一人一人の動きを常に見ているように指導された
- ・年齢別の接し方を学んだ
- ・場面に適した声掛けの仕方を学んだ
- ・うれしい言葉をかけてくれた
- ・励ましてくれた
- ・積極的であることをほめられた
- ・壁面の手伝いを喜んでもらえた
- ・部分実習をたくさんさせてもらえた
- ・先生としてみてくれた
- ・就職について相談に乗ってくれた
- ・褒めるだけでなく、ときには叱ることも必要であることを学んだ
- ・トラブルの対処法を学んだ
- ・言い合いを止めるとき「自分が言われる立場だったら嫌だよ」と反対の立場に立たせて教えてくれた
- ・先生によって子どもへの叱り方が違うことを学んだ
- ・クラスを受け持つことの難しさを学んだ
- ・先生からのアドバイスで自分では気づかなかった点に気がついた
- ・常に全体を意識することを学んだ

#### 4-1 子どもと接して「困った」と思ったこと

表4-1

| 項目                   | 19年 (%) | 20年 (%) |
|----------------------|---------|---------|
| 子どもへの対応に困った          | 51%     | 32%     |
| 実習生の言うことを聞いてくれなくて困った | 5%      | 9%      |
| その他                  | 5%      | 15%     |
| 特になし・回答なし            | 39%     | 44%     |

- ・言葉の悪い子やわがままな子がいたこと
- ・「あの子と遊びたくない」などと言う子の対処法
- ・実習が終わって帰るとき、子どもに「一緒にいて」と言って泣かれてしまった
- ・午睡のとき「いつもの先生じゃないと嫌だ」と言われた
- ・実習生に対して殴ったり、蹴ったりする子がいて眼鏡を叩かれた
- ・人見知りで泣かれてしまった

- ・話が聞きとれず、園児の気持ちを理解してあげられなかった
- ・0～1歳児への言葉掛けに困った
- ・言葉の理解ができなかった
- ・生意気な子ども、甘えてくる子どもたちへの対処
- ・何人かの子どもたちが一斉に話しかけてきて困った
- ・食事の対応
- ・言葉が乱暴な子、キレる子への対応
- ・外国人の子とのコミュニケーション
- ・土曜保育での異年齢児への指導
- ・障害児への接し方
- ・実習生に対して、子どもが軽く見る
- ・実習生慣れしていた
- ・話を聞いてくれないで、遊ぶときだけ寄ってくる
- ・叱ることができずなめられた
- ・けんかが多く困った。けんかの対応に困った
- ・人数が多くて大変だった
- ・プールの援助、対応に苦勞した
- ・遊びと活動への切り替えが難しかった
- ・責任実習で子どもたちを集中させること

4-2 指導の先生から「不満だ・こんなふうに指導して欲しかった」と思ったこと

表4-2

| 項目                   | 19年 (%) | 20年 (%) |
|----------------------|---------|---------|
| 指導方法                 | 27%     | 12%     |
| 質問の時間が少なかった・質問しづらかった | 4%      | 3%      |
| その他                  | 14%     | 11%     |
| 特になし・回答なし            | 55%     | 74%     |

- ・子どもの指導の仕方に不満を感じた
- ・仕事をあまり任せてもらえなかった
- ・今日すべきことを細かく指示して欲しかった
- ・事前訪問のときにいろいろ教えてもらいたかった
- ・毎日アドバイスをしてもらえるとよかった
- ・もっと指導をして欲しかった

- ・指導案の書き方について詳しく教えて欲しかった
- ・指導案の書き直しをはやく言って欲しかった（指導案を当日に直された）
- ・責任実習に入る前に指導してもらいたかった
- ・先生により指導が違った
- ・異年齢との接し方の指導が欲しかった
- ・指導助言の欄を毎日書いて欲しかった
- ・優しく指導して欲しかった
- ・忙しそうで質問ができなかった
- ・質問をしたときに優しく対応して欲しかった
- ・保育室に一人にされるが多かった
- ・園児と触れ合う時間が欲しかった（雑用ばかりさせられた）
- ・保育士の態度に不満だった（悪口をいっている）
- ・実習生に対して無関心
- ・叱り方がこわかった
- ・先生同士の意志の疎通がないように感じた
- ・改善点を言って欲しかった

#### 5-1 本学で学んだことで、実習に役立ったこと

表5-1

| 項目                     | 19年(人) | 20年(人) |
|------------------------|--------|--------|
| 手遊び                    | 76     | 82     |
| 絵本・紙芝居の読み聞かせ           | 26     | 11     |
| ピアノ                    | 19     | 29     |
| パネルシアター                | 11     | 17     |
| 工作・壁面構成                | 17     | 1      |
| 指導案の書き方                | 12     | 12     |
| 乳幼児の発達についての知識          | 6      | 7      |
| 童謡                     | 4      | 2      |
| 乳幼児の日常の援助（歯磨き・おむつ交換など） | 3      | 1      |
| 折り紙                    | 2      |        |
| 自閉症児の特徴                |        | 1      |
| 授業での諸注意（毎時間話してくれたこと）   |        | 1      |
| 子どもと話すときの声の調子          | 1      |        |
| 授業で学んだことすべて            |        | 1      |
| リズム運動・体育               | 1      |        |
| 手遊びなどの導入法              | 1      |        |
| 子どもがかかりやすい病気について       | 1      |        |

5-2 実習前に学べると良いこと

表5-2

| 項目                 | 19年(人) | 20年(人) |
|--------------------|--------|--------|
| 指導案の書き方            | 36     | 34     |
| 手遊び                | 18     | 13     |
| リトミック              | 5      | 4      |
| 遊び・ゲーム             | 5      | 11     |
| 工作                 | 3      |        |
| ミルクの飲ませ方・抱き方・おむつ交換 | 9      | 5      |
| ピアノ                |        | 3      |
| 年齢にあった主活動          | 1      | 2      |
| 現代的な体操や手遊び         | 1      |        |
| 障害児との接し方           | 1      |        |
| プールに関する予備知識        |        | 1      |
| 日誌の書き方             | 1      |        |
| 食事の援助法             | 1      |        |
| 集中のさせ方             | 1      |        |
| 乳児の発達過程と対応法        |        | 1      |
| わらべうた・幼児向けの歌       |        | 1      |
| ペープサート             | 1      |        |

6. その他

- ・充実していた
- ・大変だったけど楽しかった
- ・疲れました
- ・先生も実習を体験して欲しい
- ・責任実習で多くのことが勉強になりました
- ・実習で使える制作などをもっと取り入れて欲しい
- ・エプロンシアター・ペープサートなどを準備しておくが良い
- ・実習先によって、指導内容に差があるように思う
- ・遠いところまで訪問してくれてありがとうございました
- ・先生が実習園に来てくれたかどうかわからなかった
- ・子どもは可愛い
- ・もう実習はたくさんです

以上アンケート調査の結果である。アンケート調査は保育実習Ⅱに関するものであり、実習形態

としては参加実習、指導実習である。参加実習は、子どもの中に入ってかかわり、保育者としての役割の一部を担っていくことで、“一緒に遊ぶ”“絵本・紙芝居の読み聞かせをする”“手遊びを楽しむ”等、自分からかかわり援助することである。指導実習は自ら事前に指導計画を立てて実践し、保育士としての責任を担うことであり、子どもの生活に即した指導計画が大切である。表1では、実践（絵本、手遊び）を楽しんでもらえた、子どもへの理解ができた、行事に参加できたことが19年度、20年度いずれも30%強であり、実習園に対して「よかった・うれしかった」ことの3分の1が参加実習の成果をあげているといえる。また、雰囲気・指導・対応が良かった、反省会で励まされたなど実習園の指導に対して、19年度は40%、20年度は54%と指導体制が充実していたことがうかがえる。またその他では自分の弱点への気づき、前実習での反省点を生かされた、保育士の姿勢が勉強になったなど、実習を通して振り返りができたことがあげられ、大変素晴らしい実習の成果である。表2は実習園に不満であるに対して、特になし・回答なしが57%、20年度は71%であり、不満と感じた実習生のほうが少なかった。指導上の不満では指導実習に関することがややあり、指導案の提出日がはやい、指導案に対する助言がほしい、指導実習の日がはやい（子どもを把握してから出来ればよかった）などで、保育所側の予定などもあり難しいところであろう。子どもへの対応に関しては、“実習期間同じ年齢クラスだったが他の年齢クラスも関わって見たかった”との記述があったが、前回の実習で各年齢を経験したので、今回はじっくりと子どもを把握してほしいとの考えもあつてのことかと思われる。“0歳児クラスも担当したかった”との記述があったが、月齢によっては人間関係がつけられていない人から世話を受けることに不安感をもち、生活が乱れることがあつてはならないために、あえて実習生を入れないと考えている保育所もあるようである。表3-1は子どもが慕ってくれた、折り紙や手遊びを喜んでくれた、下手な伴奏でも歌ってくれたなど、子どもたちと楽しく、充実したかかわりができたことを表している。また、乳児とのかかわり方、障害児への対応、指導実習を通して各年齢への理解が深められたなど、体験学習の成果があげられていると言える。さらに“保育士に向いていることを確信できた”と自信をもった学生もいた。表3-2では“励まされた”“褒めてくれたことがうれしかった”との記述が約10%であり、約70%は指導案や指導実習のアドバイス、子どもたちとの場面によってのかかわり方など実習園での適切な指導を頂いたことがうかがえる。表4-1では、“子どもへの対応に困った”“実習生の言うことを聞いてくれない”等、19年度56%、20年度41%である。約半数の実習生が子どもへの対応に苦戦しているようである。子どもたちは、実習生に対して無関心であったり、甘えてきたりとさまざまな態度を示す。子どもたちの成長のプロセス・環境・性格などが違うことを意識して対応することは、12日間の短い期間では難しいものとする。このような結果を得ることにより、学生自身が“子どもへの対応に困った”という結果だけで終わらず子どもへの理解を深める意識を高めていけば、意義ある実習となるであろう。表4-2からは19年度55%、20年度74%が指導の先生への不満はないようである。指導に関

して若干の記述があったが指導実習に関してのことであり、実習生にとっては相当なプレッシャーであるようだ。表5-1は短大で学んだことで実習に役立ったこと、表5-2は実習前に学べるとよいことを記述してもらった。役だったことは、手遊び、絵本・紙芝居の読み聞かせ、ピアノ、パネルシアター、指導案の書き方など指導実習で成果があったのではないと思われる。また、学べるとよかったことに“指導案の書き方”を約25%の学生があげている。このことは授業の中で指導案のどのような部分が大変であるか具体的に検討していく必要がある。その他には“充実していた”と実習の目標を達成したと思われる記述があったかと思うと、“先生も実習を体験してほしい”“もう実習はたくさんです”と実習の大変さを語っている記述もあった。

#### IV おわりに

保育実習の履修方法は時代とともに変遷し、現在に至った。核家族化や女性の社会進出により、保育需要に応えるべく保育所の役割は大きい。乳幼児が一日の大半を過ごす保育所は、乳児保育、障害児保育、病児保育、子育て支援など保育内容は多様化している。さらに近年の子どもをめぐる環境の変化は著しく、高い資質が保育士に求められている。今回は保育実習Ⅱのアンケート調査を実施したもので、その目的は「保育所の保育内容とその体系を学び、保育士としての考え方や保育技術を習得する。実習を通じて養護や教育の本質を体験的に理解する。またこれまで学習した知識や技能を基礎に、実践を通してさらなる応用力を養う」とうたわれている。保育士の職務の理解、子どもの個人差に応じた対応、発達過程に応じた援助法、指導計画の立案と実践、保育士の職業倫理と資質についての理解がどのくらいできたであろうか。実りある実習にするためには、授業における保育専門科目を深く学び、知識や技能を高めるとともに、幅広い教養を身につけることが大切である。本学保育科学生の日頃の授業への取り組みにより、充実した実習に結びつくようにと願うものである。

#### 引用・参考文献

- 1) つくば国際短期大学：教育・保育実習の手引き
- 2) 全国保育士養成協議会：保育実習指導のミニマムスタンダード
- 3) 森上史朗・大豆生田啓友：幼稚園実習 保育所・施設実習